

1 基本方針

(1) スタートモデルカリキュラム作成の趣旨

五領域（健康、人間関係、環境、言語、表現）に基づき、遊びや生活から総合的に学ぶ幼児期の教育課程と、各教科等の学習内容を系統的に学ぶ小学校の教育課程は大きく異なり、小学校に入学したばかりの1年生にとって、すぐに教科学習に入ることは大きな壁がある。そこで、1年生が小学校での学び方に円滑に移行していくために、接続期における特別なカリキュラム（スタートカリキュラム）が必要になる。そこで、児童が安心して自ら学びを広げていくことができるようにするために、1年生担任が幼児期の育ちを大切に、生活科を中核とした合科的、関連的な活動を展開することができるようにこのスタートカリキュラムを作成する。

三条市においては、多数の小学校・義務教育学校及び私立幼稚園、私立認定こども園、私立保育園、公立保育所が存在し、1施設対1施設のカリキュラム連携が難しい状況にある。このような状況の中、市全体で共通のスタートカリキュラムを設定することは重要であり、幼児施設と小学校の接続の大きな助けとなる。

また、1年生担任にとって4月は多忙を極め、じっくりと授業計画を練る時間を取ることは難しい状況である。その中でモデルとなるスタートカリキュラムがあることは、大いに参考となるであろう。

以上を鑑み、三条市では、平成28年度に幼児施設と小学校の接続を支えることを目的として「平成28年度版 幼保小接続期におけるスタートモデルカリキュラム」を作成し、幼児施設と小学校双方で活用することにより、幼保小連携の成果を挙げてきた。

(2) 見直しの経緯

平成29年3月、新たな幼稚園教育要領、認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針、小学校学習指導要領が国によって示された。これらの要領・指針では共通に「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱が掲げられたとともに、幼児施設における「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が示され、縦・横両方のつながりで子供の育ちを見守っていくこととされた。また、令和元年度には市内の小学校で使用する新教科書も採択された。そのため、各新要領・指針等の趣旨や新教科書の内容を反映した新たなスタートモデルカリキュラムが必要となった。

このような状況から、三条市の幼保小連携の一層の充実に資するため、平成28年度版カリキュラムを見直し、「令和2年度版 幼保小接続期におけるスタートモデルカリキュラム」を作成することとした。

(3) 見直しの視点

ア 幼稚園教育要領、認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針、小学校学習指導要領に示された幼保小接続についての観点を基に見直しを行う。

- イ 幼稚園教育要領、認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針に示された「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を考慮する。
- ウ 三条市学校教育プラン、三条市幼児教育推進プラン、安心わくわくプログラム等に即した内容にする。
- エ 新教科書の趣旨や特色を活かす。
- オ 義務教育学校前期課程についても、「小学校」に含め表記する。

(4) 2週間の週予定の具体的内容について

ア 1年生入学後2週間全ての学習活動を、生活科を中核とした合科的・関連的な一連の入門期活動「なかよし」ととらえた。内容は、担任・担任外の先生、学級内・学級外の1年生及び他学年と仲良くなる活動、学校探検、教科学習の最初の活動等である。

イ 1限を体育館で行う学年合同生活科の帯单元「なかよしタイム」として、2週間の中心活動とした。第1週は幼児期に近い活動で遊ぶ時間を十分確保し、学校は楽しいと感じられるようにした。簡単な自己紹介の活動等を多く取り入れる中で、自然に同じ学級の友達が増えていくように計画した。第2週は他学級の1年生と仲良くなり、より学校に慣れるための名刺交換、他学年と仲良くなる活動及び学校探検等とした。各教科の初めの学習も学校探検とからめた合科活動として取り入れた。

ウ 具体的な教科学習については、次のような内容を計画した。これは、「なかよしタイム」を支える内容、あるいは「なかよしタイム」の学習と関連付けた内容になっている。

- (ア) 生活⇒「なかよしタイム」の活動、学校探検の活動
- (イ) 国語⇒自分の名前書きや名刺作りなどの学習
- (ウ) 算数⇒学校探検と関連させた数に関する学習
- (エ) 音楽⇒音楽室や音楽に興味をもつための活動
- (オ) 図工⇒名前カードや名刺の模様描きの活動
- (カ) 体育⇒「1年生を迎える会」の出し物の練習
- (キ) 道徳⇒1週間を振り返って、次週への希望をもつ活動

*幼稚園・保育所（園）等において年長児は5領域の区別なく過ごしてきた。その状況から、小学校入門期の活動も一つの大きなくくりとして捉える。担任は、子供たちにこれらの時間が別々の教科の時間であるという働きかけはせず、2週間程の活動中に自然に教科の特性を感じていくようにする。しかし、時数集計の際にはくゝの教科で集計する。例：〈国語〉

エ 週予定を次の観点で色分けをした。

- (ア)

| | |
|---|---|
| 緑 | 色 |
|---|---|

→朝活動、朝の会、給食、清掃等
- (イ)

| | |
|---|---|
| 黄 | 色 |
|---|---|

→1限の帯となる「なかよしタイム」で生活として集計
- (ウ)

| | |
|---|---|
| 水 | 色 |
|---|---|

→「なかよしタイム」を支える活動で各教科時数に集計
- (エ)

| | | |
|---|---|---|
| ピ | ン | ク |
|---|---|---|

→全校の学校行事・児童会行事等として集計
- (オ)

| | |
|---|---|
| 紫 | 色 |
|---|---|

→どの時数にも入れない欠課

*上記(イ)及び(ウ)についての指導略案をP9以降にまとめた。また、関連のある「安心わくわくプログラム」及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」のページ数や項目等についても併記した。

(5) 各小学校における計画立案の際の留意点

- ア 三条市内の1年生は、在籍児童が数人の単学級から100人の複数学級までである。また、年度の曜日状況、給食開始状況、学校行事・児童会行事の状況もそれぞれ異なる。ここでは、複数学級の1年生で2年生を巻き込んだ計画を想定しているので、それぞれの学校の実情に合わせて計画を立てる際の参考としてほしい。
- イ 三条市では、年長児の1月から小学校1年生の6月までの6か月を接続期としているが、この間の接続については、「安心わくわくプログラム」を参照する。

(6) 授業を実施する際の留意点

- ア 児童の小学校に入った喜びや、学習をしたい、友達を作りたい、学校を知りたいという興味・関心をさらに伸ばしていくように授業の進め方、声掛けの仕方等を工夫する。
- イ 幼児施設ではそれぞれ特色ある取組をしており、児一人一人の経験が異なることを念頭に置きつつ、今までの経験を大切に、生かしていくような活動や声掛けを行う。
- ウ 幼稚園・保育所(園)等で年長児は学習時間・休憩時間の切れ目なく活動していた。その状況を理解し、合科的・総合的な活動を効果的に行うために、モジュール等弾力的な時間運用の工夫をする。
- エ 幼児期は長時間椅子に座っていることが少なかったことから、教室前に集まる、立って活動する等の時間を多く取ることにより、集中力が持続するように工夫する。
- オ 幼児期には、グループで1つのテーブルに座り、相談したり友達の作品を見たりすることが多かった。前を向いての一斉授業だけではなく、机配置を工夫し、グループ活動を多く取り入れることにより、友達の活動状況が分かり、安心して活動に取り組める環境になる。
- カ 複数学級の場合は、「なかよしタイム」を学年合同で実施する。その際、中心になって指導する職員と集団から離れがちな子供や支援が必要な子供に対応する職員に分かれて指導する。